

# えんちょう通信

No.116

令和6年1月12日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「でも からっぽに してしまっちは あとのひとに おきのどく。」

『どうぞのいす』（作／香山美子 絵／柿本幸造 ひさかたチャイルド 1981年）という絵本は、いつ読んでもいいお話だと思います。

ある日、うさぎが木の椅子を作り、立て札に「どうぞのいす」と書いて、野原の木の下に置きました。通りかかったロバはドングリのかごを椅子に置いて、木陰でついお昼寝。そこへクマがやって来て、ドングリをいただきます。「でも からっぽに してしまっちは あとのひとに おきのどく。」と、かわりに蜂蜜を置いていきます。次にキツネがパンを置いていき、その次にはリスがやってきて、同じように栗を置いていきます。あとの人のことを思って、みんなが何かを残しておいてあげる。最初に椅子を置いたうさぎの優しさが次々につながっていき、みんなが幸せになっていきます。

幼稚園教育要領の前文には、これからの幼稚園には「持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる」と書かれています。

今、大切な地球の資源を使い果たしてしまっちは、次の世代が使う分がなくなってしまいます。それでは、あまりにも「あとのひとに おきのどく」です。今ある資源や自然環境や文化遺産を、後の世代に大事に引き継いでいけるような子どもたちを育てていかなければならないのだと思います。

そういう思いを込めて、次のような方針で、先生方みんなで令和6年度の教育計画を作っています。

## 【令和6年度の清水幼稚園の教育の重点】（案）

### 《教育の方向性》「持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培う」

#### ◎ 子ども一人一人が進んで『よい生活習慣・よい学びの習慣』を身につけるようにする

- 遊びや生活の中で、よい生活習慣、よい学びの習慣を進んで身につけるよう丁寧に指導・援助する。

・場に応じたよい言葉づかいができる。 『あいさつ へんじ 応答』

「おはようございます〜おやすみなさい」「ありがとうございます」「ごめんなさい」「教えてください」など

・片づける習慣、手伝う習慣 ・おいしく食べる習慣（例）「小学校で給食を食べよう」

・話をきちんと聞く習慣 ・絵本や図鑑などを見たり読んだりする習慣 ・自分の気持ちや考えを言葉にする習慣

#### ◎ 多様な『人・もの・こと』とかかわり、『他者理解』と『共感』する力を育む

- 『いい電』に乗って、世界を広げる。（例）「県立美術館・図書館に行こう」

○ 地域の自然や文化に触れる。（例）「阿部農園でりんご狩りをしよう」「茅葺屋根の佐藤家に遊びに行こう」

○ 地域の様々な人とかかわる。（例）「福島消防署清水分署に消防車を見にいよう」

○ 外国の言葉や文化に触れる。（例）「ALTと遊ぼう」

○ 小学校との日常的なかかわりを深める。（例）「小学校探検に行こう」

○ 地域へ子どもたち自ら働きかける。（例）「招待状を書こう」「お礼の気持ちを表そう」

○ 体験したことを言葉にしたり、絵に描いたりして表現する。 『体験を経験に』

#### ◎ 『地域に開かれた幼稚園』づくりを進め、『保育の質の向上』を図る

- 保育を振り返り、保育の改善を進める。

《改善の視点》『子どもの可能性を信じるあたたかな眼差しと丁寧な応答』

・全職員参加の研修会・打ち合わせ会（水御曜日の13:15~14:00）

○ 保護者や地域の方々のボランティアを積極的に活用する。

○ 「清水こぐまの会（子育てサークル）」の活動を支援し、充実する。

○ 未就園児の定期的な預かり保育を継続し、充実する。

○ 小学校へのスムーズな接続を図るための保育の改善と充実を進める。

・言語環境、言語活動の充実 ・小学校の授業参観研修

○ 保護者の活動を支援し、充実する。 ・PTA教養講座の充実

